

[共同研究報告]

## 連弾の研究

— 各教員の指導報告から —

代表者 高木 誠 稲葉 順子 鈴木 賀子  
野村 麻里 平野 智美 和田 淳一

〈Joint Study Report〉

## A study of "Piano for four hands"

— From the guidance report of each teacher —

Makoto TAKAGI Junko INABA Yoshiko SUZUKI  
Mari NOMURA Tomomi HIRANO Junichi WADA

### I はじめに

「連弾」とは日本独自の呼称で、1台のピアノを2人で演奏することを指す。英語ではピアノ・デュオという言い方がなされるが、この言葉は連弾の他、2台のピアノを2人で奏するピアノ二重奏の場合にも使用される。従って、輸入楽譜を扱う際には、楽譜内容はもとより、**piano for four hands**の文字を確認し、それが2台ピアノ用の作品なのか、連弾作品なのかを見極める必要がある。

一つの楽器を二人で奏するという、他の楽器にはない特異な形態が発生した理由は何であろうか。音域の広いピアノという楽器の形状が物理的にそれを可能にすると同時に、心理的な必然性として、ピアノ指導という教育行為に連弾の淵源を求めることができるのではあるまいか。

初心者は、7オクターヴを越える幅およそ1.2mのピアノ標準鍵盤を前にするが、最初に使用する音域はせいぜい2オクターヴに過ぎない。指導に際して教師は、余った音域で模範奏をするケースが多く、生徒のとなりに教師が座って一緒に弾いて指導する風景とは、それがそのまま連弾のスタイルといえる。

生徒と一緒に弾くという指導には、教師の模範奏により、言葉を介さず直接、演奏の指針を示せるというメリ

ットがある。この「連弾的なる指導」はその後、教則本によっては「連弾による指導」を本格的に志向するようになる。実際、現在でも日本では広く用いられているバイエル教則本においては、教師用連弾パートが多数用意されているのである。

連弾の活用は初心者への指導にとどまらない。独奏曲の教材からは導きにくい「他者を意識した演奏」に習熟させることに役立つ。我々が現在、本学で教育対象とするのは、主に幼児教育を志望する学生であり、彼らが現場において第一に求められるピアノ技能とは歌唱伴奏力である。これは正に幼児という「他者を意識した演奏」でなければならない。

我々は平成18年度、このような観点から連弾作品の教育的意義に着目し、本学より研究助成を受け、共同で「連弾の研究」を行った。各自、連弾について基礎的な知識及び時事的な傾向を学ぶと同時に、連弾作品の楽譜を収集し<sup>(1)</sup>、教員同士で連弾し合い<sup>(2)</sup>、その中から適切と思われるものを学生の教材としてピックアップし<sup>(3)</sup>、実際に使用してみた。本稿は、連弾の歴史と最近の傾向を概観するとともに、指導した一連の研究内容を報告するものである。

## II 連弾小史

鍵盤楽器にはピアノの他、その前身であるチェンバロが思い起こされるが、連弾とピアノとの関わりに焦点をあて、その小史をたどってみたい<sup>(4)</sup>。

1709年、イタリアのクリストフォリにより発明されたピアノは、当時にあっては外観上、チェンバロと区別がつかないものであった。18世紀中盤まで、鍵盤楽器として隆盛を誇ったチェンバロに、主要な連弾作品を見出すことは困難である。ドメニコ・スカラッティの膨大なチェンバロ作品の中にも、連弾曲は見出せない<sup>(5)</sup>。その後チェンバロは、18世紀後半に鍵盤楽器主役の座をピアノに奪われ、楽器の機能的な進歩を止め、現在では古楽器として存在している。

対するピアノは、発展の過程において徐々に音域を広げ、19世紀後半には、現在の標準である88鍵(幅約1.2m強)に達したのである。この事実は、連弾の発生には、音域の拡張が条件の一つであったことを物語っている。ピアノは、発生の過程において音量の連続可変を実現し、進化の過程において、さらなるダイナミックレンジの拡張と、タッチにより音質をより緻密に変化させることを可能にした。音域の拡張と、ピアノの楽器としての特性がその後の連弾の発展に決定的な役割を果たしたといえるだろう。

前述のように、連弾作品の濫觴は、バイエルピアノ教則本に掲載されるがごとく、初心者向けに適宜、作曲され使用される教材のような存在が主であった。これに対して、普遍的価値を持つ「作品」としての登場は、モーツァルトの出現をもって始まったといえそうである。モーツァルトは、当時、チェンバロの陰で脇役に甘んじていたピアノにいち早く可能性を見出し、ピアノのためのソナタを精力的に書いた。そして向かうところ不可なるはなき天才的創作力で、連弾にも大きな可能性を与えたのである。彼の連弾ピアノソナタは、今日、コンサートにも頻繁に取り上げられる素晴らしい作品である。

その後、シューベルトは連弾に重要な作品を残し、ロマン派の後期にあつては、ドヴォルザークやブラームスが小品の域にとどまるとはいえ、優れた連弾曲を残した。近代フランスの作曲家達＝フォーレ・ドビュッシー・ラヴ

エルは、連弾作品に独自の世界を築いた。彼らの場合、連弾作品が2台ピアノ作品の簡易版には留まらず、独自の精妙な世界を作り上げていることが注目に値する。

ところで、19世紀後半には、オーケストラの代理的な役割もピアノに期待されようになった。鍵盤の魔術師の異名をもつリストの隠れた業績は、ベートーヴェンの全交響曲をピアノ用に編曲したことである。これらは鑑賞に耐える優れた編曲である半面、技術的難度が高く、アマチュアには手が出ない。

しかし交響曲を連弾として編曲すれば、技術的難度を分散することが可能である。一般の演奏者に対して、弾いて楽しむということを目的に、管弦楽曲の連弾編曲が、著名な作曲家以外の手によって広く行われたのである。

以上のように、連弾には歴史的に見て、教育用、純粋作品、編曲版の3系統が存在するというのが我々の認識である。

## III 連弾指導の意義

### (1) 楽譜出版業界の変化

かつての楽譜出版業界とは、既存の楽譜を数十年に渡って少しずつ増刷するという地味な業界であった。原譜は、浄書という熟練者の製図作業を経て作られることから、その作成には活版印刷等とは比較にならないくらい時間と費用を要した。従って、浄書して出版する作品の条件とは、将来にわたって増刷を重ね、確実に初期費用の回収が見込まれることであった。

しかし、建築の設計がCADにとって代わられたように、浄書も楽譜のワープロたるノーターションソフトにその役割を譲って久しい。これにより、中小の楽譜出版社においても、様々な楽譜を早く、安価に出版することが可能になった。こうした変化を背景に、ポピュラー音楽の分野においては、それまでの邦楽、洋楽といった従来のカテゴリーに加え、ドラマ、アニメ、ゲーム等に付随する音楽まで、幅広い楽譜が流通する状況になっている。最近では、欲しい楽譜をネットで検索し、有料ダウンロードによって入手する方法も普及してきた。

こうした中であつて、連弾の持つ娯楽性への期待が更に高まりを見せている。音楽の娯楽形態としては、第一

にカラオケがイメージされるが、ピアノという基礎訓練を必要とする器楽分野に、独奏よりもある意味平易でかつ独奏を越える表現の可能な連弾に、娯楽性が見出されたのである。ポピュラー音楽の分野に、連弾楽譜が多数出版されているのは、その顕著な現われである。これらの作品は学生に対する訴求力が強く、上手に用いれば強いモチベーションを与えることが可能である。

今回の共同研究では、これら玉石混淆の出版物に時間の許す限り取り組んでみたが、中には後世に残る名作品もあるように思われた。既に評価の定まったクラシックだけでなく、指導者には指導に先立ち、自らが演奏し、評価に参画していく態度が必要であると強く感じられたのである。

#### (2) 保育者養成上の意義

保育者に期待されるピアノの技能とは、歌唱指導上の補助的役割が主である。つまり独奏楽器としての演奏技能より、和声と旋律の両方を奏し得る楽器として、幼児を音楽に「乗せる」役割が期待されるのである。そうした保育者を養成するにあたって、他者を意識する訓練は大変重要である。

幼児教育系大学のピアノにおいては、純粋な器楽教育は楽器に熟達したピアノ専門の教員が担い、実践に関しては経験に富んだ保育系教員が担うという傾向があった。しかし我々は、他者を意識することを入門段階から行う必要があるとの認識にたち、初心者であっても、歌詞付きの教材にあっては、歌い始めの合図を声でかけさせることを原則に指導してきた。

連弾の導入は、他者を意識する機会を与える。演奏に際しては、互いに声を掛け合って出だしを揃えようとする行動が促され、歌唱指導の際に声かけが必要であることを実感する。そのような必然性を感じさせる点、連弾の導入は大変意義深いものであることが観察されるのである。

## IV 各教員の指導事例

本学では、連弾導入の時期を、職能育成の段階が終了し、就職先の定まってくる2年次後期からとしている。従

来、就職内定と同時に学習のモチベーションが低下する学生が散見されたのだが、連弾導入により、友人を誘って楽譜を渉猟する学生の姿が増え、導入の大きな効果が実感されている。以下は、担当者による指導の実践報告である。難易度の基準とする「即修教則本」とは、我々が本学の学生用に編著した教科書である。1部＝初級、2部＝中級、3部＝上級と想定した内容の詳細については、高木らの「コンピュータを用いたピアノ教則本の作成」千葉経済大学短期大学部初等教育科研究紀要第20号、1997を参照して頂きたい。

#### (1) 稲葉順子

連弾の醍醐味は何と言ってもパートナーと創りあげるアンサンブルにある。1人では成し得なかった多彩な表現が可能になると同時に新たな困難も生じて来る。その克服には他者の音を聴きつつ全体のバランスを考え調和を図る感覚が必要である。高音域を扱う第1ピアノ奏者へは倍音の影響を受けて響きの鳴りが変化する事を念頭に置いて音量やタッチの工夫を行わせ、ペダルを扱う第2ピアノ奏者へはパートナーの都合や全体への効果を充分配慮する様に指示した。実際に4手を色々な組み合わせで弾かせたり、又パートを入れ替えて弾かせたりする事により、自分・パートナー・全体への理解が深まり、それにつれ諸々の問題がかなりの部分で解決されて行った。

「ブラームス：ハンガリー舞曲第5番 嬰へ短調」  
[1852~1869] 連弾（オリジナル） 音楽之友社 1993  
難易度：即修教則本3部学習中、あるいは終了した者。

#### ① 教材として選択した理由

- i) 連弾曲の歴史上、民族舞曲を扱った作品は数多く残されているが、中でも誰でも耳にした事のあるこの馴染みの曲は学習意欲が喚起され易く、ジプシー音楽の魅力を十分に堪能することが期待出来る。
- ii) 原曲はピアノ連弾曲であるが、その後ピアノ独奏曲、ヴァイオリンとピアノ、そしてオーケストラの為の曲として編曲されているので、それぞれ聴き比べ、表現に生かす事が出来る。
- iii) テンポ・強弱等の急激な変化が要求される曲なので、“パートナーと呼吸を合わせる”という連弾の醍醐味を十分に味わえる。

② 指導の実際

(全体の表現)

楽譜に書かれている速度記号と一般に演奏されているものが大いに乖離しているが、かなりのテンポのゆれも、ジプシー音楽の“乗り”として、楽しみつつ表現したい。

重々しく大きく豊かに動く音楽と一変して軽やかに動く音楽の表情の変化や、強弱のコントラストを明確に、お互いの呼吸を感じつつぴったりと合わせる。

それぞれ運動の異なるスラー・スタッカート・アクセント等の多彩な表現が同時に要求される箇所も多いが、4手ならでの演奏効果を生かし、明瞭な個性を持つ音のアンサンブルを図る。

(第1ピアノ)

- ・冒頭の4小節の旋律は左手の演奏となっているが、朗々としっかりした音を出す為に、場合によっては右手で弾くことも考慮する。
- ・7小節、左手で弾くメロディーの細かい16分音符のパッセージを明瞭に弾ける様に。
- ・17小節、オクターブのユニゾンとなるところは、より華やかに、賑やかに。
- ・レグジュエロやマルカートの切り替えを、呼吸や予備運動の変化と共に、明確に表現する。

(第2ピアノ)

- ・3小節や6小節の様な、時折り現れる唐突な右手の<> (アクセント) を効果的に。ハーモニーの変化も合わせて強調する。
- ・ダンパーペダルのアクセントペダルとしての効果を把握して使用する。
- ・ゆっくりと柔らかくに弾くアルペジオと軽快に賑やかさを表現するアルペジオの演奏効果を認識して弾き分ける。
- ・従来なら軽く弾くべき裏拍に向かっのクレッシェンドにエネルギーを感じて、土着の民族的な趣を表現する。

「シューベルト：3つの軍隊行進曲Op.51より第1番ニ長調」[1822年]連弾(オリジナル) 音楽之友社 2002  
難易度：即習教則本3部学習中程度の者。

① 教材として選択した理由

i) 行進曲という性格上、一定の安定したテンポで進むので、アンサンブル体験の少ない学生にとっても比較的容易にパートナーと合わせることが出来る。

ii) 誰でも耳にした事のある親しみ易い音楽で、興味が喚起され、取り組みへの導入がスムーズである。

iii) オーケストラ版やヴィルトゥオーゾ的なピアノ独奏用(タウジツヒ編曲)もあり、それぞれの音楽を聴き比べる事によりイメージをより広げ、音楽創りに生かす事が出来る。

② 指導の実際

(全体の表現)

行進するに従い風景がどんどん移り変わるが如くに新しい主題が現れるが、シューベルト独特の転調の妙味を感じ、調性の動きがもたらす曲想の変化を表現する。

全体としては4分の2拍子に則った1拍目が強拍、2拍目が弱拍のパターンで進行して行くが、それが時折16小節からの様に逆転し2拍目にアクセントが付く。そこを意識して効果的に演奏する。

テンポは比較的一定で安定しているが、強弱はかなり頻繁に変化するので、そのディナーミックスの落差を楽しみつつ、めりはりのある表現を目指す。

(第1ピアノ)

- ・7小節目から奏される旋律線の1拍目で、Pでもってアクセントを要求されているが、やや第1関節を緊張させて鍵盤を掴むタッチで演奏すると良い。
- ・1小節単位でリズムパターンが繰り返される第2ピアノのリズムであるが、少なくとも4小節単位の大きなフレーズを感じて歌わせる。
- ・65小節トリオからは、スラーが多用されている事に注目し、そのかかり方に留意して曲想をつける。
- ・第2ピアノの変化して行くハーモニーとその倍音を感じながら、共鳴するように弾く。(特に強拍部において)

(第2ピアノ)

冒頭の6小節はオープニングとしてのファンファーレの様に華やかに活気を持って演奏する。

- ・Allegro vivace部分でのペダルの効用として、踏む事

によってリズムの重さを、また放す事で軽さを持たせている事に気付かせ、その効果を生かして演奏する。

- ・伴奏にはほぼ徹しているので分りにくいが、第1ピアノのフレーズに即したまとまりを感じて演奏する。
- ・ハーモニーの変化に意識を向け、音楽の緊張と緩和の動きを把握し、それによる音量のバランスに十分留意する。

## (2) 鈴木賀子

「アヴェ・ヴェルム・コルプス W.A.モーツァルト 作曲  
久木山直 編曲」  
ヤマハミュージックメディア「先生と生徒のれんだん  
コンサート」Vol.18 モーツァルト名曲集(初級用)2006  
難易度：即修教則本2部後半学習中、あるいは終了した者。第1ピアノは第2ピアノよりいくらか容易であるが、より高き精神面をも伴いたい教材であるため、3部学習中、あるいは終了者にも対象となりうる。

### ① 教材として選択した理由

J.S.バッハの「平均率クラヴィア曲集第1巻」(全24曲)の第1曲「プレリュードとフーガハ長調」のプレリュード部を第2ピアノに伴奏部として使用する。本来シャルル・グノー(1818-1893)が「アヴェ・マリア」(声楽)に用いた伴奏譜であるが、第1ピアノにモーツァルト作曲「アヴェ・ヴェルム・コルプス」(声楽)の旋律を組み合わせた点において非常に新鮮である。

グノーの「アヴェ・マリア」は、カトリック教会における「天使祝詞」というラテン語であり、第1ピアノにおけるモーツァルトの「めでたし。まことの御体よ」という聖体讃美の歌詞と共に、より深き祈りの言葉を想像させうる。8小節ごとに提示部・A部・B部・C部・D部の記号表示あり。(D部のみ6小節)

ラルゲット指定の4分の4拍子を忠実に守り、感情に流されることなく、清らかな音色を追求させるにふさわしい曲である。第1ピアノも第2ピアノも単純音型ながらも淡々とした美しさを持っており、構造の把握が容易である。

### ② 指導の実際

(全体の表現)

全体を通しては、内面に悩み・苦しみを超越した清らかな音色を追求させたい。また、アヴェ・ヴェルム・コルプスの本来の歌詞の意味と、この旋律を作曲した当時のモーツァルトの心情にまで奏者に理解させたい。加えて、第2ピアノの和音転回及び重厚さを心がけさせたい。

(第1ピアノ)

一見単純な音列であるが、二声部に入る8小節までは、単音の中に有名な旋律に隠された歌詞をイメージさせたい。12小節4拍目fからは、精神面の緊張感を、オクターヴ同一音の中に表現したい。D部分への移行は、より精神的な深さを追求させたい。C部分から本来の編曲とは異なるが、実際の合唱用4声旋律を第1ピアノに弾かせることにより、より重厚な和音を訓練させることも可能である。A B C D部それぞれのイメージの変換を、より新鮮なる気持ちをもって経験させたい。

(第2ピアノ)

ほとんどのリズム形態は同様であるが左手における通奏低音は途切れないように残し、右手導入音までの和音を重視させる。右手16分音符のリズム形態にムラが出ないように、経験させる。第1ピアノの旋律をきちんと把握し、それに付随する和音の色を自覚させる。正確なリズムを心がけることは大切であるが、リズム重視によりフレーズの流れをとめてしまわないよう体得させる。

「結婚行進曲 メンデルスゾーン作曲 ピアノ連弾 中級  
ウェディングⅡ～パーティーにぴったりの華やかなアレンジです～」  
ヤマハミュージックメディア 2005  
難易度：即修教則本2部学習中あるいは終了した者。

### ① 教材として選択した理由

学生が取り組むことを強く欲した。

結婚式になくてはならない実用音楽として定着している有名な曲であり、導入が容易である。

単純音の組み合わせではあるが、協調性をもって第1ピアノ・第2ピアノのリズム感を一致させることは非常に難しい。よって曲に応じた休符の感じ方等の教材

としての基礎練習にもふさわしい。

もともとは、フェリックス・メンデルスゾーン(1809-1847独)がイギリスの文豪シェイクスピアの戯曲「真夏の夜の夢」の舞台出演のために付けた13曲の音楽の中の1曲である。本来トランペットの序奏に続いてメロディーが奏されることを説明し、迫力に富んだ音質を経験させたい。華やかな和音・トレモロ・スタカート等を正確に把握・実践させる。

## ② 指導の実際

(全体の表現)

本作品は、中級用に編曲されたものであり、教材により扱う和音数が異なる。この連弾曲を体得後、本来の原譜による和音を経験させることが好ましい。和音に重厚さと深みを必要とするので、和音に負けない指の訓練をさせたい。

本作品は、さほど難度が高いとはいえないが、リズムに対するタイミング等が第1ピアノ・第2ピアノとも細部にわたり同一であることが求められる。従って単独練習も必要であるが、より以上の「合わせる」経験と気持ちは特に必要不可欠である。

(第1ピアノ) (第2ピアノ)

提示部・**A**部・**B**部・**C**部分から成る。

まず冒頭部において繰り返される3連符のリズム感に統一性を持たせる。

**A**部へのきっかけとなる5小節間の感じ方を統一する。

**A**部1小節最後の8分音符のリズム感の統一と2小節の1拍目から2拍目におけるスラー。及び3拍、4拍のスタカートの音質を揃えたい。(第2ピアノは2分音符)

3小節目・付点4分音符音の装飾から16分音符への流れに一体感を持たせたい。

**B**部の第1ピアノの左手、第2ピアノの右手のメロディーを、強調するべくそれぞれの外声部の奏法を心がけたい。

**C**部 3拍分のテヌートアクセントの統一を図りたい。

**C**部から最終小節に至るまでの音質をより深く、明るく運指できるよう経験させる。

「ピアニスト 全音楽譜出版社 ピアノ絵本館⑤ 動物の謝肉祭 サン・サーンス作曲 宮本良樹 編曲」2006  
難易度：即修教則本1部及び2部学習中。ただし、むらのない運指の実践を求める為には、2部以降の学習者が好ましい。

### ① 教材として選択した理由

本来、本書中の「白鳥」のメロディーが有名であり、この「ピアニスト」は、馴染みがあるとは決して言えない教材であるが、4分の4拍子が続く中、数回の転調において、今後の譜読みに必要な調号の一部に慣れ親しむことを経験させたい。

本書は、曲毎に作文つきの挿絵が彩り良く随所に見られ、絵を楽しみ、話を楽しむことで実際の音符(譜読み)学習への興味を大にすることが可能である。

基本的なリズムにおける運指を改めて確認し、実践することが可能であり、本曲の経験により、より強度な指の確立と、指の分離に役立つ。

### ② 指導の実際

転調によって**1****2****3****4**の表示あり。

(全体の表現)

まずはじめにハ長調→変ニ長調→ト長調→変ホ長調→ハ長調という転調をしっかりと認識させ、調号の説明を付加する。**1****2****3**は16分音符中心の同じ構成であるが、**4**の8分音符における(で構成される)リズム感を自覚させる。最後6小節のポーコ アツチェレランドの確認をし、「合わせる」時のテンポの統一をはかる。

(第1ピアノ)

アツチェンティシモ音を除き、全て右の運指であるので、練習時は、同構成音を左手におきかえてオクターヴ下を、もしくは両手で同音列を練習させることも可能である。(利き手以外を鍛えることは好ましい)

**4**部はフォルティッシモであり、両手の同音運指になるので、音ムラが出ないように、視覚・聴覚両方向から運指の確認をさせる。

(第2ピアノ)

**4**部右手3度の運指がバラバラにならないよう、確認・経験させる。その際、対応する左手のフレーズとリズムを正確に演奏できるよう、注意させる。

特に、右手下行形と左手の上行形の組み合わせに注意させる。

(第1・第2ピアノ)

16部音符が主体となるリズム構成のパターンをしっかり把握する。

それぞれの調号における、最終小節、最終音のアッチェンティシモの打鍵法の確認と臨時記号の確認を行う。最終音3音のアッチェンティシモがバラバラにならないよう、「合わせる」練習・経験をさせる。

### (3) 高木誠

Jポップから2曲、ディズニーソングから1曲選んだ。学生は、音楽と同時に歌詞に魅せられてその曲を好きになる場合も多い。カラオケで楽しむ曲は、日本語の歌詞のついた曲が多く、音楽に対してそのような楽しみ方をしている学生に好まれる曲といえば、Jポップになると考えたからである。

「雪の華 松本良喜作曲 大宝博編曲」  
ヤマハミュージックメディア やさしいピアノ連弾-J  
ポップ・ヒッツ 2004  
難易度：即修教則本2部学習中の者ならば適用可能。

#### ① 教材として選択した理由

作品は平成15年、中島美嘉のヒット曲である。在学中の学生にあって広く膾炙しており、また、個人的にも、音楽的にも大変優れた内容であると高く評価していた。その連弾譜面を見つけ、一読したところ、初級者向けの編曲にも関わらず、曲のエッセンスをよく伝え、連弾の面白さも十分味わえることを見出したので選択した。原曲は口長調だが、短一度高いハ長調に移調してある。原曲の妖艶な感覚の失われる点は残念だが、#5つは初級者にとって、高いハードルなのでやむを得ぬところである。

#### ② 指導の内容

主旋律はプリモの比率が高いが、セコンドにも要所は割り振られ、主従が交代すべく編曲されている。主の個所は前面に出て、従の個所は背後に退くことなどを、音量や音色を変えて表現するように促した。ポピュラー音楽に特徴的なシンコペーションのリズムを明確に弾くことはもちろん、プリモとセコンドにおける音の

ずれが発生しないよう、リズムの正確さに対しては目標を高く設定した。徐々に速度を落とす最後の部分については、双方の感覚が一致するよう、合わせの練習を繰り返し行わせた。

「クリスマス・イブ 山下達郎作曲 川田千春編曲」  
ヤマハミュージックメディア ピアノ連弾 中・上級  
クリスマス・イン・デュオ (改訂版) 2005  
難易度：即修教則本第3部程度。

#### ① 教材として選択した理由

1983年のヒット曲だが、既にクリスマス・ソングの定番として、多くの人に季節と風物を想起させる名曲である。循環コードを背景に、失恋の歌詞が淡々と歌われる曲の内容は、学生の心に滲みるようで、誰にも受け入れられる素地のある曲と判断した。

#### ② 指導の内容

単調に流れぬよう、主旋律と伴奏部分の引き分けを際立たせることが大切である。その上で、正確なリズムとテンポのキープを心がけさせる。編曲方針は、中・上級レベルとなっているが、基本的に平易である。但し、プリモに出現するパッヘルベルのカノンをもじった個所は、初級レベルでは無理なので、通常の場合とは逆に、この曲においては技量の高い者がセコンドではなく、プリモを担当すべきであろう。ここは、技術的な理由から一時的にテンポを落としても差し支えないのみならず、むしろ、優れた本歌取りでもあるこの個所を際立たせる目的で、ゆっくり弾くことを検討してよいと思う。

「アンダー・ザ・シー アラン・メンケン作曲」  
ヤマハミュージックメディア 譜めくりのいらぬやさ  
しいピアノ連弾ディズニーソング③ 1998  
難易度：即修教則本第2部程度。

#### ① 教材として選択した理由

1989年のディズニー映画、リトル・マーメイド（原作はアンデルセンの童話）の主題歌である。メロディアスなバラードではなく、シンコペーションのリズムを多用した器楽的な作品といえる。この曲を収録する楽譜集は、譜めくりなしの見開きで完結する短い初心者向きの編曲からなり、学習者の便宜にも配慮した画期的なものである。内容的には平易なので、初心者にも

演奏可能、かつリズム感を鍛えるには格好の教材である。

② 指導の内容

この曲の教材目的は、シンコーションのリズムを体得させるとともに、休符の間もカウントを維持するというアンサンブルの基本を理解させることである。実際、個別の練習ではある程度弾けるようになった両者が、連弾を開始した途端にリズム的に破綻をきたす状況が恒常的に見られる。歌唱伴奏の際に要求される最低限の水準、即ち、縦の線を合わせる必要性が、この連弾を通して学習者に身をもって体得される。

この楽譜を、学生自らが希望して選択したもののだが、聴いて心地よいこの曲を実際に演奏するとなると、リズムに関する基礎訓練が自らに著しく不足していることを自覚したようである。練習による学習効果が極めて高い教材といえるだろう。

(4) 野村 麻里

今回の連弾指導にあたり、それまでの器楽授業との関連性をもたせ、即修ピアノ教則本又は教材100曲集で扱っている曲を、連弾によって器楽Ⅱ選択者全員に学習させることにした。

「かたつむり 文部省唱歌 飯田和子編曲」ラララあそびうた1 ぴあのくらぶ編 音楽之友社 2002  
 「日本の四季いきいきメドレー（さくら～春が来た～我は海の子～もみじ～雪～春の小川～花）青木麻理子編曲」大村典子日本のうたファミリー連弾集Vol.1いきいきEnjoy! 音楽之友社 2006  
 「春が来た 変身パフォーマンス（チャチャチャ、ハバネラ、ゆったり気分、ブギウギ）岡野貞一作曲 岩崎佳子編曲」大村典子日本のうたファミリー連弾集Vol.2のびのびEnjoy! 音楽之友社 2006  
 「メヌエット長調 バッハ作曲 金益研二編曲」新みんなのれんだん7 クラシック名曲集 ヤマハ 2005  
 「さんぽ 久石譲作曲 高野宏美編曲」新みんなのれんだん9 スタジオジブリ作品集 ヤマハ 2006  
 「君をのせて 久石譲作曲 大宝博編曲」譜めくりのいらぬやさしいピアノれんだん 宮崎アニメ ヤマハ

1998

「手のひらを太陽に いずみたく作曲 大宝博編曲」新譜めくりのいらぬやさしいピアノ連弾 はるなつ ヤマハミュージックメディア 2004

「アイスクリームのうた 服部公一作曲 星出尚志編曲」同上 2004

「たなばたさま 下総皖一作曲 鈴木一司編曲」同上 2004

「ピクニック イギリス民謡 星出尚志編曲」同上 2004

「とんでったバナナ 櫻井順作曲」親子で連弾 NHK こども番組 シンコーミュージック 2006

メドレー曲以外は一定のテンポを保ち、大胆な強弱はない。技術的困難さもほとんどなく曲想は把握しやすい。難易度：全曲とも即修教則本第2部前半から第3部の中頃程度。

① 教材として選択した理由

読譜の訓練とアンサンブル体験を目的として、早く読み、すぐに合わせ、集中して仕上げることを念頭に選曲した。また教則本の伴奏は非常に単純なので、四手による編曲で新鮮味を持たせることも理由の一つである。

② 指導の実際

曲は旋律と伴奏に役割が完全に分かれているもの、旋律と伴奏が適宜入れ替わるものの二種類に分けられる。これらと各学生のレベルを考慮して、選曲とパート分けを行った。

i) 経過 授業初回は、楽譜を配り一定時間（20分程度）を与えて個人練習させ、その後すぐに連弾させた。即修ピアノ教則本第3部レベルの学生は、ほとんど最後まで読譜でき、合わせでも、弾くことだけで精一杯ではあったが大きな乱れは無かった。第2部レベルの学生は途中までの読譜に留まり、リズムやフレーズ把握に多少困難があったが短時間で理解した。2回目以降は最後まで連弾させ、アンサンブル指導を行った。早い組は2回目で、3～4回目では大方の組がほぼ仕上がった。出来上がりにばらつきは多少あったがこの時点で区切りとし、教室使用の可能な範囲でカワイピアノCDレコーディングシステムを用いて録音し、その



演奏を聴いて終了とした。

## ii) 指導内容

伴奏と旋律の役割を自覚し、同時に相手にどう関わりながら音楽が進んでいくかを、合わせながら明確にしていった。指導上指摘することが多かったポイントは次の通りである。

主にセコンドにおいて、左右の手が交互になる伴奏パターンはテンポを一定に保つのが以外に難しい。前のめりにならないよう意識させた。また、長い音や数小節に渡る休符などで、内的に拍を保持する必要性を指摘した。特徴的なリズムやシンコペーションは明確に弾く意思を持たないと生きないので、繰り返し指示した。独奏では主にメロディーを弾く右手が、連弾のセコンドでは内声になることが多い。意識的に弱めに弾き、プリモとバランスをとるよう注意させた。同時にバス進行をはっきり弾くよう指示した。メロディーに対旋律が入ったり、短い音形をかけ合ったり、ともに和音を弾きながら展開する部分など、自分と相手との絡み合いに関心を持たせ、それらによって曲が展開し、変化することを認識させるようにした。またメロディーは、原曲とテンポや拍子、表情の異なるものでは、その違いを把握するよう促し、伴奏に負けてしまわないよう明確なタッチを要求した。

iii) 所見 教育実習終了直後の学習だったので、学生はリラックスして取り組み、録音は締め括りとしてほどよい緊張感を与えた。自分の役割を果たしながら二人で息を合わせていくことで、音楽の流れが生み出されることを実感したようである。既習曲に違った角度から接し、その性格を共有しつつ、ひとつの演奏にする体験が、大方の組で実現したと思われる。

## (5) 平野智美

連弾を演奏するには、ピアノを弾く為の技術に加えて、アンサンブル能力を養う必要がある。ひとつの作品を2人以上で創り上げる為には、相手と自分を尊重し、同じ方向に進んでいく事が最も大切である。力量の差が明らかな場合、リードする側と、される側が生じるのは当然な流れであろう。しかし、レベルが同等な場合、連弾を奏する際にも日頃の人間関係が反映され

てしまう事が多い。相手に配慮する心と、自らの意思を伝える力、この2つのバランスを保つことは極めて重要である。連弾を通して、これらのバランス感覚を身につけさせたい。

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク第一楽章 モーツァルト作曲」<sup>(6)</sup>

全音楽譜出版社 連弾ピース No.34

### ① 教材として選択した理由

作品のオリジナルは、弦楽合奏で、誰もが一度は耳にした事のある有名な曲という点において、導入が容易である。また、様々な楽器の音色をピアノに移しかえる事により、幅広い音色を追及するきっかけになる。例えば、ヴァイオリンソロの美しい旋律、その旋律を支える伴奏のスピッカート、ソロとトゥッテイとの対比等、楽曲の構造がより具体的に把握させられる。

### ② 指導の実際

**Con sprito** の27小節と、**dolce**に相応した28小節との表現の対比を際立たせた。その際、第1主題と第2主題とが、対照的な表情を成すというソナタ形式の一般的特徴も合わせて理解させた。

20・21小節の右手トレモロは、当該学生にとって難度が高いので、低い音符を8分音符で弾かせた。音楽上特に問題はなかったが、22小節に至る楽想の盛り上がりには欠ける結果となった。

19小節、左手トリルは右手ときれいなユニゾンにならないため、第二ピアノ奏者に分担させた。

24、25小節の右手シンコペーションを強調して、リズムの面白さを認識させた。

全編を通して、右手のトレモロを正確に奏することができるよう、とりわけ注意を喚起した。

「小さな世界～グリム・グリニング・ゴースト～ジッパ・ディー・ドゥ・ダー (TDLメドレー) it's A Smoll World～Grim Grinning Ghosts～Zip-A-Dee-Doo-Dah」

ヤマハミュージックメディア ピアノ連弾 中・上級 Jazzアレンジで弾くディズニー連弾 I 2005

### ① 教材として選択した理由

この作品は、ジャズアレンジによるため、テンション

ノートを多用した現代風の響きが魅力的である。既に「即修ピアノ教則本」において、ビル・エバンスの作品を学習しているが、連弾アレンジのため、さらに色彩感と迫力に富んだ内容に接することができる。性格の異なる曲がメドレーとして連続することから、弾き手、聴き手双方が楽しめるので、この種の楽曲をレパートリーとして保持しておくことは、今後、何らかの発表の機会を得た場合、役立つであろう。

## ② 指導の実際

ジャズ・アレンジということで、記譜法と実際の奏法とが異なる。この点を理解させることが第一歩である。ショパンのマズルカやポロネーズのリズムを学ばせる際には、記譜上の限界を理解させ、正しい表現を身につけさせることが最大の眼目となる。それと同様、学生になじみの少ないジャズのスウィング感を体得させる事が必要である。ジャズ・ワルツ、バラード、アップテンポ・スウィングの作品が連なっているが、全てにおいてスウィングで弾く点は共通することを理解させた。

本作品は、スケール・アルペジオ等、量的な技術という点においては、さほど難易が高いとはいえない。しかし、上記のように、リズムに対する理解が不可欠な上、その感じ方、タイミング等が第1・2ピアノで同一であることが求められる。従って、ひたすら合わせて練習し、両者の感覚を統一していくように努めた。

また、本編曲はクラシックの和声より複雑な音構成を持つジャズのアレンジを、連弾という演奏形態をもって可能にしている側面がある。つまり、第1・2ピアノ4手を使うことによって初めて、その音構成が成立するのである。単独で演奏する範囲においては、全体像が理解されず、譜読みには忍耐が必要で、まずはこの段階を乗り越えさせることを第一目標においた。

このように、2手から4手になることにより、より一層音の深みが増す。豊かに変化した音楽に対して、感性は刺激されるであろう。また、集団教育に終始することなく、一人一人の技量・嗜好に合わせた選曲、そして個人と向き合う指導は、生徒の興味・関心をひく結果となる。完成という目標に向かって努力をし、その後得られる満足感は、本人の自信となるに違いない。

## (6) 和田淳一

「スラヴ舞曲 第10番 ドヴォルジャーク作曲」[1886]  
(オリジナル)

全音楽譜出版社 連弾ピース No.20

難易度：即修教則本第3部学習中又は終了者

### ① 教材として選択した理由

i) 今までの主たる教材としてはドイツ古典派、ロマン派等の作品を多く扱ってきたが、それらの曲とは一味曲風が異なる教材であり、かつテレビCM等で耳にしたことのある印象的な曲である。当該学生も曲を聴いて感動し、強い学習意欲を持った。

ii) 旋律は美しく、メランコリックであり、音楽性の涵養と演奏技術の練磨には最適であり、常時意欲的に学習を継続できる。

### ② 指導の実際

(全体の表現)

- ・この曲の主旋律はウクライナ民謡から取っており、悲歌的な性格を持つ抒情歌である。短調、長調、短調の際立たせをはっきりさせることによって、この曲の持っている性質を効果的に表現できる。

(第1ピアノ)

- ・右手、左手に主旋律が分散して出てくるので、左右の音量のバランスをよく考えて弾くよう指導した。
- ・26、28、30、31、33、34、37、38、94小節等の音は、右手と左手の音の分担の仕方を工夫させた結果、たやすく演奏できるようになった。
- ・33小節目からの長調の部分は、気持ちを切り替えて明るく弾かせた。
- ・最後のE音3つは、急激なディミヌエンドで弾くように指導した。

(第2ピアノ)

- ・始めから24小節目までは伴奏の役割を担っているので、随所にあるフォルツァンドを意識しながら、第1ピアノとの音量のバランスをよく聴きながら弾く様指導した。また、スタカートで音が跳んでいるので、音が抜けない様注意を喚起した。
- ・41小節目から45小節目までは長調の主旋律であるので、音を明瞭に弾く様注意した。

尚、この部分は左手部分に音が入っているので、右

手は和音で弾かざるを得ず、装飾音を正しく弾かせるのにかなりの練習を要した。

- ・84小節目は第1ピアノとの合わせ方に最大限の注意を要する箇所なので、ゆっくり何回も練習させ、その目的を達成した。
- ・124小節目から最後まではタイによく注意してリズムを間違えない様注意しないと第1ピアノとのズレが生じ曲の最後まで合わなくなるので、時間をかけて練習させとりわけ注意を喚起した。

「ホール・ニューワールド アラン・メンケン作曲」

ヤマハミュージックメディア 2005

難易度：即修ピアノ教則本第3部学習中又は終了者

#### ① 教材として選択した理由

i) この曲は1992年に「千夜一夜物語」の「アラジンの魔法のランプ」をもとにディズニーが製作したアニメーション映画「アラジン」で魔法のじゅうたんに乗って世界中を旅する時に流れた曲で、ディズニーメロディーとして必ずといってよいほど耳にしたことのある親しみ易くかつ美しい曲である。担当していた学生も演奏することを強く望んだ。

ii) 第一ピアノ、第二ピアノにほぼ均等に出現する特徴のある魅力的なメロディーは、演奏者の感性と学習意欲に強く働きかけ、曲が完成する事を目標に熱心な練習を促すきっかけになる。

iii) 上、下、両パートを合わせることにより、リズム、運指、音楽的表現等を適切に学ぶ事ができる。

#### ② 指導の実際

(全体の表現)

- ・今までの指導経験から、往々にこの様な曲はテンポを速く弾きがちであるが、比較的ゆったりとした速さで、この曲の特色ある主旋律を印象的に浮き立たせることによって効果的な表現が可能になる。

(第1ピアノ)

- ・2小節目の入り方のリズムが不正確にならない様、注意した。
- ・12小節目までの休止の小節を間違えずに数えないと第2ピアノと正しく合わないことを指摘した。
- ・24小節目右手・左手ユニゾンの3連符は、ゆったり4分音符2つ分に均等に入れるよう指導した。この時、

合わせ方の練習として机上などで左右両手を使い、左手は均等に3つたたき、右手も同じく2つたたき練習をさせて3連符と4分音符2つの合わせ方を学習させた結果、正しいアンサンブルが出来るようになった。

- ・38小節の16分音符の部分は運指がスムーズにできなかったもので、指番号を指定して何回も練習させた結果、正しく演奏できるようになった。
- ・39小節目から46小節第1拍目までは第1ピアノのパートで最も難度の高い部分であり、当該学生も正確に弾けるようになるまで相当の時間を要した。留意すべき事は、先ず自分で正しく自信を持って弾けるようにしておく事と、この部分は音量が大きすぎない様に注意しないと第2ピアノとのバランスが悪くなるので、最も時間をかけて指導した。

(第2ピアノ)

- ・4小節目までの左手の全音符第1拍目のD音に重心を置いて弾くように指導した。これは、2小節目から入る第1ピアノが入り易いようにさせるためである。
- ・5小節目から20小節目まではこの曲の主旋律が和音で出現するので、旋律を浮き立たせて弾く様に注意を喚起した。
- ・21小節目から38小節目までは全体的に音量を小さくし、特に左手のオクターブ音は音が大きくなり易いので、その点よく注意を促した。
- ・39小節目から55小節目までは主旋律の部分なので、その点よく留意し、しかも第1ピアノが複雑に動いているので、それにあまり惑わされない様注意を促した。
- ・58小節目から60小節目までは第2ピアノの中で最も練習を要する部分である。右手、左手それぞれは比較的単純であるが、両手で合わせた時に崩れ易いので、最も時間をかけて練習をさせた結果、正しく弾けるようになった。

## V おわりに

研究の過程を通して判明したことは、連弾曲を含め、

ポピュラー系の楽譜が予想以上に多数、かつ新曲のリリース後、かつてない早さで出版されていることであった。この事実はピアノ愛好者の中で、そうした出版に対する需要が確実に高まっていることを示している。

かつてのピアノ指導とは、教師が学習者に定評ある教材をその好みに配慮することなく与えるという最大公約数的かつ効率を重視する方法が一般的であった。今回の連弾の教育的効用を期待した共同研究にあっては、学生が自らの嗜好に沿った連弾曲を探し当てた時、その効果が最大となることが実感された。各パートの進捗に応じて合わせの段階へと進んだ学生が、練習室で盛んに練習に励む姿が多く目撃されている。旧来の教材を一定の「我慢」を強いて学習させている時とは異なる風景である。言うまでもなく、自発的に練習する学生は、義務的練習にとどまる学生とは比較にならないほど長足の上達を遂げる。

我々が今後取り入れるべき方向は、Ⅲに述べたように、最近の楽譜出版動向を見極め、学生の心の琴線に触れるような教材を提示する努力をしていくことである。優れた連弾教材をいち早く提示するためには、楽譜として出版される前の段階、即ち、雑誌に掲載される楽譜を教員が知ることが必要との観点から、二つの雑誌を講読することにした。次の二誌は、メディアを通して流布する人気の高い音楽について、難易度を表示した上、適切な編曲による楽譜が数多く掲載されている。

- ・月刊ピアノ ヤマハミュージックメディア<sup>(7)</sup>
- ・隔月刊ピアノスタイル リットーミュージック<sup>(8)</sup>

アニメやテレビドラマ、映画等の音楽をいち早く指導に取り入れることの是非については、図書館に漫画を入れることをめぐる論争に通じる問題を指摘する人もあろう。しかし、毎月発刊される雑誌に目を通し、その良否を判断し続ける教員の努力は、既知の教材を漫然と学習させることとは比較にならないくらいの負担となる。また、そのことは歴史の彫琢に耐えた連弾クラシック曲の価値を減じるのではなく、却ってその価値を再認識することにも繋がる。

専門分野の研究にのみ邁進していたのでは、学生を指導することの叶わぬ昨今、指導の実効性を高めるためには、優れた作品を過去の作品から発掘するとともに、毎

月の雑誌から発見していくことも重要な責務となろう。その際、ピアノに編曲される前の原曲を知る努力も必要であろう。学生に人気のあるテレビドラマを見て、楽譜内容が、いかなる場面の音楽であるかを把握するなど、学生の視点に立った教育を目指していかなければならないと考えている。

## 注

- (1) ピアノピース68点を含む、総タイトル264点を収集した。出版社内訳は、ヤマハミュージックメディア、全音楽譜出版社、音楽之友社の上位3社で大半を占め、ドレミ楽譜出版社、デプロ出版、シンコーミュージック等の出版社が数点ずつ、輸入楽譜は26点となった。ポピュラー系連弾楽譜はヤマハミュージックメディアが、質、量ともに他を圧倒している。一方、クラシック系は全音楽譜出版社、音楽之友社が大半で、輸入楽譜は原則としてこの2社で扱っていないものを集めた。
- (2) (3) 1台のピアノを3人で演奏する6手の楽譜集も存在するので、それにも取り組んでみた。「みんなで楽しく6手連弾 Vol.13宮崎アニメ」ヤマハミュージックメディア1999、「楽しい6手連弾ピアノ曲集1」ドレミ楽譜2005、「やさしい6手連弾ピアノ曲集」デプロ2005、「3人で楽しく6手連弾コンサート」共同音楽出版社2005等である。ほとんどの楽譜に「やさしい」「楽しい」といった限定詞がつき、初心者向きである。4手に比べると却って表現の幅が限定されるこの形態には、娯楽以上の必然性が感じられなかったため、学生向け教材としては除外することにした。
- (4) (5) 次の文献を参考にした。  
 ニューグローヴ世界音楽大事典 講談社 1994~96 「ピアノ二重奏」の項目 (14巻)、  
 同シリーズ「ハーブシコード」の項目 (13巻)、同シリーズ「ドメニコ・スカララッティ」の項目  
 音楽大辞典 平凡社 1983 「連弾」の項目  
 新訂標準音楽辞典 音楽之友社 1991 「ピアノ二重奏」の項目  
 串戸功三郎・小倉隆一郎 ピアノ連弾の楽しみ p.4-6 全音楽譜出版社 1996
- (6) 原曲は弦楽セレナード (ヴァイオリン2部、ヴィオラ、チェロ、コントラバス) で、全音ピアノ連弾ピースには編曲者名がない。松永晴紀編著 ピアノ・デュオ作品辞典「増補改訂版」春秋社 2004によれば、この曲の連弾には、ペーターズ版のO.Singer編と、ショット版のE.Bachmann編とがあり、編著者の記した編曲上の特徴等から、編曲者はO.Singerであると判断する。

(7) この雑誌には、通常一月に1曲の連弾譜が掲載される。

2007年発刊分の12曲の中では、次の2曲が学生の好みに合い、しかも初級用に編曲されていることから、教材に適すると判断した。

「ラプロディ・イン・ブルー」 ガーシュイン作曲 ピアノアレンジ 久木山直 2007.1

「千の風になって」 新井満作曲 ピアノアレンジ 金益研二 2007.4

(8) 当雑誌は、隔月刊である半面、掲載された楽譜をピアニストが演奏したCDが付属している。月刊「ピアノ」同様、連弾譜が掲載されるが、編曲の難度が高めである。「ロッキのテーマ」ビル・コンティ作曲を、前者では中級用(★★レベル)に志村麻里が(2007.7)、後者では初級用(Aレベル)に巖馬朗がアレンジしているが(2007.2)、実際には後者の方が高い技術を要する。